

高知県感染症発生動向調査（週報）

2015年 第52週 （12月21日～12月27日）

2015年 第53週 （12月28日～ 1月 3日）

★お知らせ

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第51週の2.43から第52週では3.03と増加しています。高知市、中央東、幡多、安芸で増加し、須崎では注意報値を超えています。第53週は年末年始の医療機関休診に伴う報告減の影響で急減しています。

全国では過去5年間の同時期と比較してかなり高い値が続いており、引き続き注意が必要です。

通常、患者との接触を介して伝播するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学校などの集団での感染も多くなります。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○伝染性紅斑（リンゴ病）に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第51週の0.37から第52週では0.37と横ばいです。須崎、中央東で増加し、須崎では注意報値を超えています。第53週は年末年始の医療機関休診に伴う報告減の影響で急減しています。

幼少児（2～12歳）に多いですが、乳児、成人が罹患することもあります。潜伏期は4～15日。顔面、特に頬部に境界明瞭な平手で頬を打ったような紅斑が突然出現します。つづいて四肢に対側性にレース様の紅斑が出現します。消退後さらに日光照射、外傷などによって再度出現することがあります。発疹の他に発熱、関節痛、咽頭痛、鼻症状、胃腸症状、粘膜疹、リンパ節腫脹、関節炎を合併することがあります。予後は通常、良好です。但し、溶血性貧血の患者では、汎血球減少を起こすことがあります。妊婦の場合には、胎児水腫又は流産を起こすことがあります。

○冬の感染症（RSウイルス感染症など）に引き続き注意しましょう！

・RSウイルス感染症に注意して！

定点医療機関からの報告数は、第51週の0.70から第52週は0.97と増加しています。中央東、幡多、中央西、安芸で増加しています。第53週は年末年始の医療機関休診に伴う報告減の影響で減少しています。

この病気は軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。また、高齢者において急性のしばしば重症の下気道炎を起こす原因となることが知られていますので、特に長期療養施設内での集団発生が問題となることがあります。予防のポイントは、手洗いと咳エチケットです。マスクを着用するなどして咳エチケットに気をつけ、手洗いによる手指衛生に努めましょう。

なお例年、季節性インフルエンザに先行して、夏頃より始まり秋に入ると患者数が急増し、年末をピークに春まで流行が続くことが多いです。

インフルエンザについて

これからの時期は、空気も乾燥し、インフルエンザウイルスが活動しやすい時期となります。

第52週はインフルエンザ定点医療機関からインフルエンザの報告が2件ありました。

第53週はインフルエンザ定点医療機関からインフルエンザの報告が11件ありました。

インフルエンザの飛沫感染対策

- (1) 普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと
- (2) 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること
- (3) 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと 等

具合が悪いときは、早めに医療機関を受診しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第 51 週の 8.20 から第 52 週では 9.97 と増加し、中央東、幡多、中央西、須崎で増加しています。第 53 週は年末年始の医療機関休診に伴う報告減の影響で減少しています。また、第 52 週は定点医療機関からのホット情報ではカンピロバクター感染症が 5 例、ノロウイルスが 50 例、ロタウイルスが 1 例、サルモネラが 1 例報告されています。

毎年この時期からノロウイルスなどの感染性胃腸炎の報告数が増えてきます。この病気は腹痛、嘔吐、下痢、発熱を主な症状とし、冬場に流行する代表的な感染症です。乳幼児に好発し、1 歳以下の乳児は症状の進行が早いのが特徴です。37～38℃の発熱がみられることもあります。年長児では吐き気や腹痛がしばしばみられます。特にノロウイルスを原因とする場合、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。予防法で最も大切なのは手洗いです。排便後、また調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

感染症予防の基本は、

☆☆☆手洗いから☆☆☆

調理時や食事前、トイレの後は石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

第52週は基幹定点から2例、第53週は定点医療機関からのホット情報で11例、学校欠席者情報収集システムでは12件の報告がありました。

マイコプラズマ肺炎の定点当たりの報告数が8月上旬から増えています。10月上旬からはホット情報でも報告数が増加していますので注意しましょう。

マイコプラズマ肺炎の発生動向とその予防対策

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ (*Mycoplasma pneumoniae*) という細菌によって引き起こされ、激しい乾いた咳、発熱、全身倦怠感が主な症状で、学校、幼稚園、保育園、家庭等で地域的に集団発生すると言われています。好発年齢は、6～12歳の小児であり、小児では発生頻度の高い感染症の一つです。潜伏期は2～3週間とされ、飛沫で感染します。異型肺炎像を呈することが多いです。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されています。重症肺炎となることもありますので注意が必要です。予防方法としては、手洗い・うがい・マスクの着用による一般的な予防方法の励行と早期の医療機関受診を心がけてください。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患）  : 急増  : 増加  : 横ばい  : 減少  : 急減
52週（12月21日～12月27日）

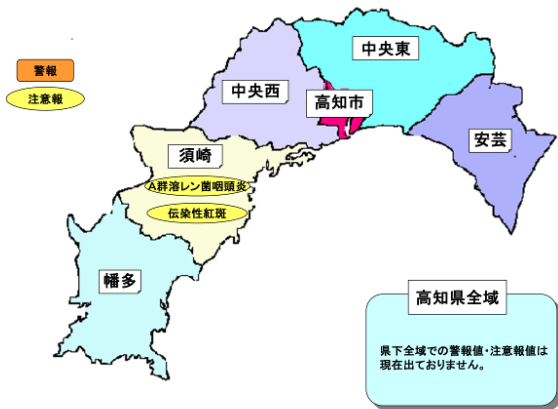
疾病名	推移	定点当たり 報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎		9.97	中央東、幡多、中央西、須崎で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3.03	高知市、中央東、幡多、安芸で増加し、須崎では注意報値を超えています。
RS ウイルス感染症		0.97	中央東、幡多、中央西、安芸で増加しています。
流行性耳下腺炎		0.90	県下全域で増加しています。
突発性発疹		0.43	幡多、須崎、高知市、中央東で増加しています。

53週 (12月28日～1月3日)

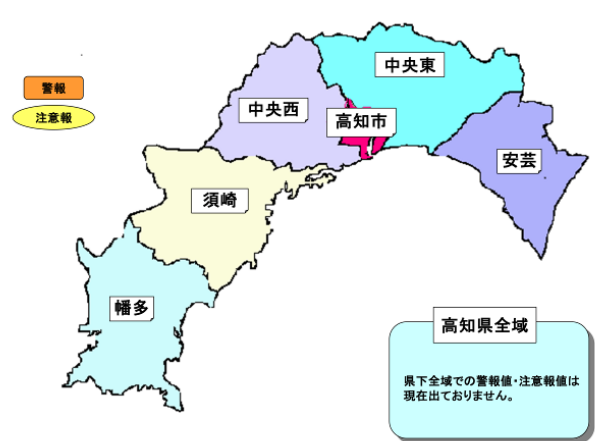
疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	👉	6.07	安芸で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	👇	1.20	安芸で増加しています。
RSウイルス感染症	👉	0.67	高知市で増加しています。
流行性耳下腺炎	👇	0.27	安芸、中央西で横ばいです。
インフルエンザ	👆	0.23	安芸以外で増加しています。

★地域別感染症発生状況

第52週



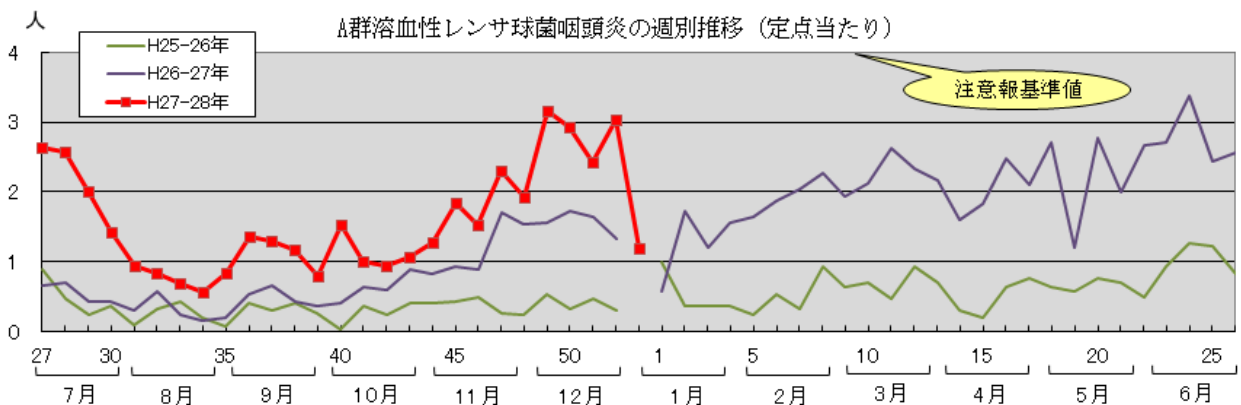
第53週



★気をつけて！

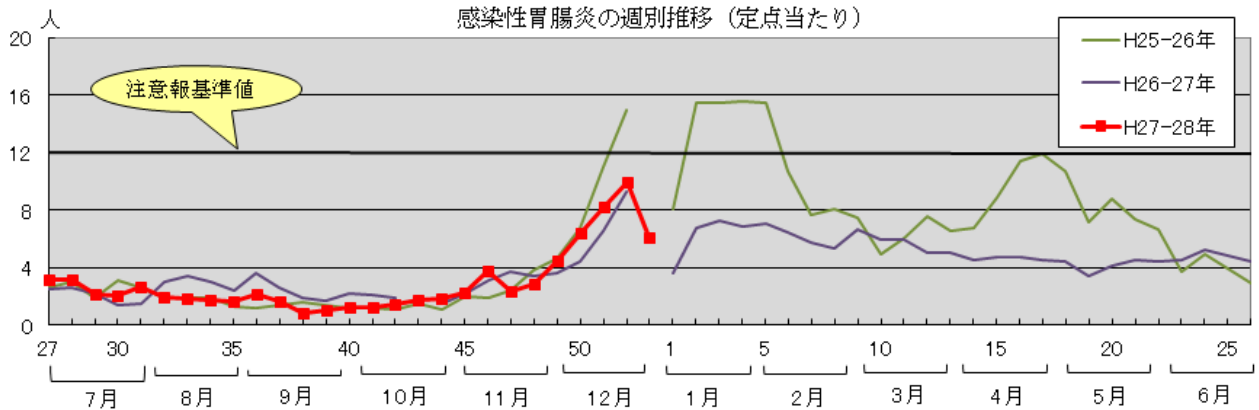
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第52週: 3.03 第53週: 1.20 (注意報値: 4.00 警報値: 8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり第52週 3.03 (前週 2.43) と増加しています。地域別にみると、高知市 3.82 (前週 2.82)、中央東 2.86 (前週 2.14)、幡多 2.40 (前週 1.00)、安芸 1.00 (前週 0.50) で増加し、須崎では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎：第52週：9.97 第53週：6.07 （注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり第52週9.97（前週：8.20）と増加しています。地域別にみると、中央東11.00（前週10.43）、幡多10.60（前週1.80）、中央西7.67（前週3.67）、須崎7.50（前週5.00）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、今週よりグラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H25-H26年とH26-H27のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

※第53週は年末年始の医療機関休診日と重なっており、報告数が減少しています。

★病原体検出情報

検出週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
53	不明の発疹症	1	女	高知市	Rhinovirus
53	肺炎	2	女	幡多	Rhinovirus

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
52	不明の発疹症	1	女	高知市	Measles virus genotype NT
52	感染性胃腸炎	1	女	高知市	Norovirus GII NT
52	感染性胃腸炎	1	男	高知市	Norovirus GII NT
52	感染性胃腸炎	4	男	須崎	Norovirus GII NT

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
51	リンゴ病	6	男	須崎	human parvovirus B19 virus

★全数把握感染症

第52週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	130	70歳代女	中央東
		1	131	60歳代男	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	19	80歳代男	幡多
	梅毒	1	12	50歳代女	中央西
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	4	80歳代男	幡多
		1	5	30歳代女	高知

第53週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
4類	レジオネラ症	1	4	80歳代女	高知市
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	12	90歳代女	

★定点医療機関からのホット情報

第 52 週

保健所	医療機関	情 報	
中央東	早明浦病院小児科	マイコプラズマ肺炎（リボテスト陽性）2例（6歳女、13歳男）	
		感染性胃腸炎 E-coli 0125 1例（13歳男）	
		感染性胃腸炎 E-coli 055 1例（1歳女）	
		溶連菌感染症 2～9歳 4名	
		流行性耳下腺炎 4、6歳 2名	
	あけぼのクリニック	ロタウイルス胃腸炎 1例（1歳男）	
		アデノウイルス感染症 1例（3歳女）	
		RS ウイルス感染症 1例（2歳男）	
高知市	けら小児科・アレルギー科	ノロウイルス腸炎 8例（1歳女、1歳男 2人、2歳女 2人、2歳男、4歳男、34歳女）	
		サルモネラ 0-9 1例（13歳女）	
		カンピロバクター 1例（13歳男）	
		带状疱疹 1例（3歳男）	
		マイコプラズマ肺炎 1例（8歳女）	
		アデノウイルス扁桃炎 2例（0歳女、3歳女）	
	細木病院小児科	ノロ 19例（8ヶ月女、9ヶ月女 2人、9ヶ月男、11ヶ月女 3人、11ヶ月男、1歳男 5人、1歳女 2人、2歳女、4歳女、5歳女、8歳女）	
		アデノウイルス感染症 1例（2歳女）	
	三愛病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1例（7歳女）	
	高知医療センター小児科	カンピロバクター 3例（11歳男、13歳男 2人）	
		アデノウイルス 1例（1歳女）	
		インフルエンザウイルス検出なし	
		ノロウイルス 5例（1歳男女、2歳女 2人、4歳女）	
	中央西	日高クリニック	マイコプラズマ肺炎 1例（1歳女）
		くぼたこどもクリニック	溶連菌感染症 2例（6歳男：須崎市、7歳男：須崎市）
	須 崎	もりはた小児科	マイコプラズマ肺炎 3例（8歳男、10歳男、13歳男）
カンピロバクター腸炎 1例（15歳男）			
感染性胃腸炎ノロ陽性 10例			
カンピロバクター腸炎 1例（7歳女） ※51週検出			
幡 多	幡多けんみん病院小児科	全てノロウイルス陽性	
	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎 1例（7歳女）	
	さたけ小児科	ノロウイルス 2例（0歳男、1歳男）	

第53週

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	ロタウイルス陽性1例(7歳女)
中央東	早明浦病院小児科	マイコプラズマ肺炎4例(3歳、4歳、12歳男2人) ヘルペス歯肉口内炎1例(4歳)
	野市中央病院小児科	感染性胃腸炎でロタウイルス(+)1例(2歳女)
高知市	けら小児科・アレルギー科	病原性大腸菌O-148腸炎1例(9歳男)
		ノロウイルス腸炎6例(0歳女、1歳男、1歳女、2歳男2人、3歳女)
		アデノウイルス扁桃炎1例(0歳男)
	細木病院小児科	マイコプラズマ肺炎2例(7歳女、12歳男)
		ノロ8例(4ヶ月女、1歳男2人、1歳女3人、2歳女、3歳男)
		ノロ+ロタ1例(1歳男) キャンピロ2例(1歳男、3歳男)
福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑1例(5歳男)	
高知医療センター小児科	A群レンサ球菌1例(6歳女)	
	病原性大腸菌1例(1ヶ月男)	
中央西	石黒小児科	ムンプス1例(7歳女:ワクチン済み) 単純ヘルペス(顔面)1例(26歳女)
	くぼたこどもクリニック	帯状疱疹1例(3歳女)
須崎	もりはた小児科	マイコプラズマ肺炎2例(8歳女)※52週検出
幡多	幡多けんみん病院小児科	全てノロウイルス陽性8例

★全国情報

第50週(12月7日～12月13日)

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核341例
- 3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症30例
- 4類感染症：E型肝炎4例、A型肝炎4例、エキノコックス症2例、重症熱性血小板減少症候群1例、つつが虫病35例、デング熱4例、日本紅斑熱9例、レジオネラ症19例
- 5類感染症：アメーバ赤痢15例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例、急性脳炎9例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群13例、侵襲性インフルエンザ菌感染症6例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症45例、水痘(入院例に限る)7例、梅毒43例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん1例
- 報告遅れ：細菌性赤痢2例、E型肝炎2例、つつが虫病7例、ブルセラ症1例、マラリア1例、レプトスピラ症1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症15例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、水痘(入院例に限る)5例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

注目すべき感染症

◆RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス(respiratory syncytial virus: RSV)を病原体とする乳幼児に多い急性呼吸器感染症である。潜伏期は2～8日、典型的には4～6日とされている。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%がRSウイルスの初感染を受けるが、初感染によって終生免疫は獲得されず、RSウイルスの再感染は普遍的に認められる。初感染の場合、発熱、鼻汁などの上気道症状が出現し、うち20～30%で気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現するとされる。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%がRSウイルス感染症によるとされる。また、新生児や生後6カ月以内の乳児、免疫不全者およびダウン症児等は重症化しやすい傾向がある。さらに、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者におけるRSウイルス感染症は、肺炎の合併が認められることも明らかになっている。ただし、年長児や成人における再感染は、重症となることが少ない。

RSウイルス感染症が重症化した場合、酸素投与、輸液、呼吸器管理などの対症療法が主となる。また、早産児、気管支肺異形成症や先天性心疾患等を持つハイリスク児を対象に、RSウイルス感染の重症化予防のため、ヒト化抗RSV-F蛋白単クローン抗体であるパリビズマブの公的医療保険の適応が認められている。

RSウイルス感染症は、感染症法改正（2003年施行）時に、感染症発生動向調査の小児科定点把握5類感染症に追加された。届出機関の医師により症状や所見からRSウイルス感染症が疑われ、かつ検査診断がなされた者が報告の対象となる。検査診断のために用いられるRSウイルス抗原検査の公的医療保険の適用範囲は、従来の「入院中の患者」（2006年迄は3歳未満入院患者にのみ適用、その後全年齢の入院患者に適用）以外に、2011年より外来の「1歳未満の乳児」および「パリビズマブ製剤の適用となる患者」に拡大された。また、全国約3,000医療機関による報告数は、年々増加しているが、検査診断のための公的医療保険の適応が拡大されてきたこと等による影響も考慮する必要がある。また、本調査は小児科定点医療機関のみからの報告であることから、成人における本疾患の動向は評価が困難である。

RSウイルス感染症は、例年、季節性インフルエンザに先行して、夏頃より始まり秋に入ると患者数が急増し、年末をピークに春まで流行が続くことが多い。また、流行開始時期は、九州が他地域よりも早く、南・西日本から東日本へと流行が推移する傾向にある。亜熱帯地域の沖縄県は他県と異なり夏期にピークを持つ。

2015年も8月下旬（第35週頃）から患者報告数が増加し始め、第50週まで過去数シーズンと同様に報告数が増加している。第50週（2015年12月7～13日：12月16日現在）の患者報告数は7,469例で前週（7,311例）と比べて158例増加した。8月～9月には、主に南・西日本で流行したが、例年同様、その後、東日本へ流行が推移し、全国的な流行となった。

また、患者報告数の動向には、地域差が見られ、九州では10月～11月に減少が見られたが、12月から再度増加している。また、北海道・東北では12月に入り概ね減少傾向であるが、その他の本州の地域や四国では、増加傾向・あるいは高いレベルでの報告数が続いている。最近の地域別における報告数上位3位の都道府県は、第47週と第48週は大阪府・北海道・愛知県、第49週では大阪府・愛知県・埼玉県で、第50週は大阪府・兵庫県・愛知県であった。2015年第37週から第50週までの報告数を年齢群別に集計すると、0歳が35%と最も多く、次に1歳が32%と続いた。3歳以下が全体の93%、5歳以下が99%を占めた。性別は男性が54%と女性に比べてやや多かった。この年齢分布・性差は、2015年第1週から第37週までの分布とあまり変わらず、過去数シーズンとも同様である。

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物品等を介した接触感染が主なものである。特に、家族内では、上述した感染経路が重複するため、RSウイルスが伝播しやすいことも報告されている。よって、家族内にハイリスク者（乳幼児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者）が存在する場合、罹患により重症となる可能性があるため、適切な飛沫感染や接触感染に対する感染予防策を講じることが重要である。飛沫感染対策としてのマスク着用や咳エチケット、接触感染対策としての手洗いや手指衛生といった基本的な対策を徹底することが求められる。本疾患は、例年年末をピークに報告数は減少するが、春まで流行が続くことが多いため、引き続き本疾患の発生動向を注視する必要がある。

RSウイルス感染症の感染症発生動向調査に関する背景・詳細な情報と最新の状況については、以下を参照いただきたい：

●感染症発生動向調査週報（IDWR）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

●RSウイルス感染症とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/317-rs-intro.html>

●IASR病原微生物検出情報「RSウイルス感染症 2014年5月現在」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/542-disease-based/alphabet/respiratory-syncytial/idsc/iasr-topic/4766-tpc412-j.html>

●IASR病原微生物検出情報「成人・高齢者におけるRSウイルス感染症の重要性」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2296-related-articles/related-articles-412/4713>

.....

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第52週 平成27年12月21日(月)～平成27年12月27日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第52週					計	前週	全国(51週)	高知県(52週末累計)		全国(51週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/12/27	H26/12/29～H27/12/20	
インフルエンザ	インフルエンザ				2				2 (0.04)	4 (0.08)	2,270 (0.46)	15,391 (320.65)	1,160,945 (235.72)	
小児科	咽頭結膜熱				3				4 (0.13)	10 (0.33)	2,184 (0.69)	169 (5.63)	69,072 (21.95)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	20	42	6	9	12	91 (3.03)	73 (2.43)	11,193 (3.54)	2,998 (99.93)	387,406 (123.10)		
	感染性胃腸炎	10	77	121	23	15	53	299 (9.97)	246 (8.20)	33,709 (10.67)	6,443 (214.77)	941,498 (299.17)		
	水痘		2	3				4 (0.30)	6 (0.20)	2,753 (0.87)	563 (18.77)	73,685 (23.41)		
	手足口病			2				1 (0.10)	()	396 (0.13)	2,505 (83.50)	381,230 (121.14)		
	伝染性紅斑		3	4	1	3		11 (0.37)	11 (0.37)	2,269 (0.72)	219 (7.30)	94,898 (30.16)		
	突発性発疹		3	5	1	1	3	13 (0.43)	7 (0.23)	1,369 (0.43)	663 (22.10)	83,070 (26.40)		
	百日咳							()	1 (0.03)	48 (0.02)	25 (0.83)	2,617 (0.83)		
	ヘルパンギーナ			1				1 (0.03)	()	113 (0.04)	963 (32.10)	98,071 (31.16)		
	流行性耳下腺炎	2	2	19	2	1	1	27 (0.90)	11 (0.37)	2,984 (0.94)	781 (26.03)	76,542 (24.32)		
	RSウイルス感染症	1	8	9	2	4	5	29 (0.97)	21 (0.70)	6,933 (2.19)	1,137 (37.90)	111,002 (35.27)		
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	6 (0.01)	()	476 (0.69)		
	流行性角結膜炎							()	1 (0.33)	586 (0.85)	16 (5.33)	24,172 (35.18)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	8 (0.02)	9 (1.13)	432 (0.91)		
	無菌性髄膜炎							()	()	20 (0.04)	16 (2.00)	1,036 (2.18)		
	マイコプラズマ肺炎			2				2 (0.25)	8 (1.00)	365 (0.77)	307 (38.38)	9,779 (20.54)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			2				2 (0.25)	4 (0.50)	11 (0.02)	62 (7.75)	396 (0.83)		
	感染性胃腸炎			1				1 (0.13)	1 (0.13)	44 (0.09)	89 (11.13)	4,251 (8.93)		
計(小児科定点当たり人数)	15 (7.50)	115 (16.44)	216 (19.12)	35 (11.67)	33 (16.50)	80 (16.00)	494 (16.27)		67,261	32,356 (869.51)	3,520,578			
前週(小児科定点当たり人数)	22 (10.50)	100 (14.27)	207 (17.76)	27 (9.00)	25 (12.50)	23 (4.05)		403 (12.94)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第52週					計	前週	全国(51週)	高知県(52週末累計)		全国(51週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/12/27	H26/12/29～H27/12/20	
インフルエンザ	インフルエンザ				0.13				0.04	0.08	0.46	320.65	235.72	
小児科	咽頭結膜熱				0.27				0.13	0.33	0.69	5.63	21.95	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	2.86	3.82	2.00	4.50	2.40	3.03	2.43	3.54	99.93	123.10		
	感染性胃腸炎	5.00	11.00	11.00	7.67	7.50	10.60	9.97	8.20	10.67	214.77	299.17		
	水痘		0.29	0.27				0.80	0.30	0.87	18.77	23.41		
	手足口病			0.18				0.20	0.10	0.13	83.50	121.14		
	伝染性紅斑		0.43	0.36	0.33	1.50		0.37	0.37	0.72	7.30	30.16		
	突発性発疹		0.43	0.45	0.33	0.50	0.60	0.43	0.23	0.43	22.10	26.40		
	百日咳								0.03	0.02	0.83	0.83		
	ヘルパンギーナ			0.09				0.03		0.04	32.10	31.16		
	流行性耳下腺炎	1.00	0.29	1.73	0.67	0.50	0.20	0.90	0.37	0.94	26.03	24.32		
	RSウイルス感染症	0.50	1.14	0.82	0.67	2.00	1.00	0.97	0.70	2.19	37.90	35.27		
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.69		
	流行性角結膜炎								0.33	0.85	5.33	35.18		
基幹	細菌性髄膜炎									0.02	1.13	0.91		
	無菌性髄膜炎									0.04	2.00	2.18		
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.25	1.00	0.77	38.38	20.54		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.40				0.25	0.50	0.02	7.75	0.83		
	感染性胃腸炎			0.20				0.13	0.13	0.09	11.13	8.93		
計(小児科定点当たり人数)	7.50	16.44	19.12	11.67	16.50	16.00	16.27			869.51				
前週(小児科定点当たり人数)	10.50	14.27	17.76	9.00	12.50	4.05		12.94						

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第53週 平成27年12月28日(月)～平成27年1月3日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第53週					計	前週	全国(51週参考)	高知県(53週末累計)		全国(51週末累計参考)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/1/3	H26/12/29～H27/12/27	
インフルエンザ	インフルエンザ			1	6	1	1	2	11 (0.23)	2 (0.04)	2,270 (0.46)	15,402 (320.88)	1,160,945 (235.72)	
小児科	咽頭結核熱							1	1 (0.03)	4 (0.13)	2,184 (0.69)	170 (5.67)	69,072 (21.95)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	3	19	1			8	36 (1.20)	91 (3.03)	11,193 (3.54)	3,034 (101.13)	387,406 (123.10)	
	感染性胃腸炎	14	35	79	14	6	34	182 (6.07)	299 (9.97)	33,709 (10.67)	6,625 (220.83)	941,498 (299.17)		
	水痘			4				4 (0.13)	9 (0.30)	2,753 (0.87)	567 (18.90)	73,685 (23.41)		
	手足口病							()	3 (0.10)	396 (0.13)	2,505 (83.50)	381,230 (121.14)		
	伝染性紅斑			3	1			4 (0.13)	11 (0.37)	2,269 (0.72)	223 (7.43)	94,898 (30.16)		
	突発性発疹	2	1	2			1	6 (0.20)	13 (0.43)	1,369 (0.43)	669 (22.30)	83,070 (26.40)		
	百日咳							()	()	48 (0.02)	25 (0.83)	2,617 (0.83)		
	ヘルパンギーナ		1					1 (0.03)	1 (0.03)	113 (0.04)	964 (32.13)	98,071 (31.16)		
	流行性耳下腺炎	2		4	2			8 (0.27)	27 (0.90)	2,984 (0.94)	789 (26.30)	76,542 (24.32)		
	RSウイルス感染症		7	11			1	1	20 (0.67)	29 (0.97)	6,933 (2.19)	1,157 (38.57)	111,002 (35.27)	
	眼科	急性出血性結核炎							()	()	6 (0.01)	()	476 (0.69)	
流行性角結核炎								()	()	586 (0.85)	16 (5.33)	24,172 (35.18)		
基幹	細菌性髄膜炎		1					1 (0.13)	()	8 (0.02)	10 (1.25)	432 (0.91)		
	無菌性髄膜炎							()	()	20 (0.04)	16 (2.00)	1,036 (2.18)		
	マイコプラズマ肺炎		1	1				2 (0.25)	2 (0.25)	365 (0.77)	309 (38.63)	9,779 (20.54)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	2 (0.25)	11 (0.02)	62 (7.75)	396 (0.83)		
	感染性胃腸炎		1	1			1	3 (0.38)	1 (0.13)	44 (0.09)	92 (11.50)	4,251 (8.93)		
計 (小児科定点当たり人数)	23 (11.50)	51 (6.80)	130 (11.46)	19 (6.20)	8 (3.75)	48 (9.25)	279 (8.96)			67,261	32,635 (878.47)	3,520,578		
前週 (小児科定点当たり人数)	15 (7.50)	115 (16.44)	216 (19.12)	35 (11.67)	33 (16.50)	80 (16.00)		493 (16.27)						

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第53週					計	前週	全国(51週参考)	高知県(53週末累計)		全国(51週末累計参考)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/1/3	H26/12/29～H27/12/27	
インフルエンザ	インフルエンザ		0.09	0.38	0.20	0.25	0.25	0.23	0.04	0.46	320.88	235.72		
小児科	咽頭結核熱						0.20	0.03	0.13	0.69	5.67	21.95		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	0.43	1.73	0.33		1.60	1.20	3.03	3.54	101.13	123.10		
	感染性胃腸炎	7.00	5.00	7.18	4.67	3.00	6.80	6.07	9.97	10.67	220.83	299.17		
	水痘			0.36				0.13	0.30	0.87	18.90	23.41		
	手足口病							()	0.10	0.13	83.50	121.14		
	伝染性紅斑			0.27	0.33			0.13	0.37	0.72	7.43	30.16		
	突発性発疹	1.00	0.14	0.18			0.20	0.20	0.43	0.43	22.30	26.40		
	百日咳							()	()	0.02	0.83	0.83		
	ヘルパンギーナ		0.14					0.03	0.03	0.04	32.13	31.16		
	流行性耳下腺炎	1.00		0.36	0.67			0.27	0.90	0.94	26.30	24.32		
	RSウイルス感染症		1.00	1.00		0.50	0.20	0.67	0.97	2.19	38.57	35.27		
	眼科	急性出血性結核炎							()	()	0.01	()	0.69	
流行性角結核炎								()	()	0.85	5.33	35.18		
基幹	細菌性髄膜炎		1.00					0.13	()	0.02	1.25	0.91		
	無菌性髄膜炎							()	()	0.04	2.00	2.18		
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.20				0.25	0.25	0.77	38.63	20.54		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	0.25	0.02	7.75	0.83		
	感染性胃腸炎		1.00	0.20			1.00	0.38	0.13	0.09	11.50	8.93		
計 (小児科定点当たり人数)	11.50	6.80	11.46	6.20	3.75	9.25	8.96			878.47				
前週 (小児科定点当たり人数)	7.50	16.44	19.12	11.67	16.50	16.00		16.27						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869